



広報資料

令和3年10月5日

問い合わせ先

第一管区海上保安本部

海洋情報部 監理課専門官 片桐 学

TEL 0134-27-0118 (内線 2511)

「海図150周年」パネル展を実施

～水路記念日企画展示～

明治4(1871)年9月12日に海洋情報部の前身である「兵部省海軍部水路局」が設立されてから、令和3(2021)年9月で150周年を迎えました。これを記念し「海図150周年」記念パネル展を、小樽市総合博物館(10月6日(水)～11日(月))にて実施します。

1. 展示場所・日時

小樽市総合博物館本館エントランス(小樽市手宮1丁目3番6号)

10月6日(水)～11日(月)、午前9時30分から午後5時

(パネル展示会場は無料)

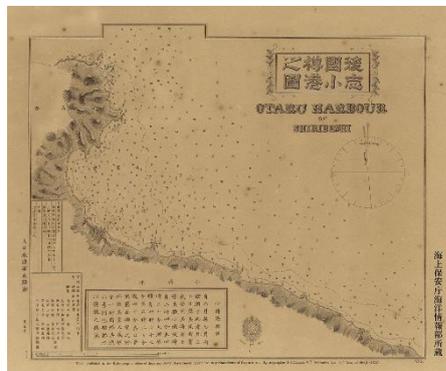
2. 主な展示内容

- ・海洋情報業務150年の歴史を示すパネル
- ・海図で見る小樽港の変遷



初代水路部長

柳 樽悦



小樽港最初の海図(明治5年)



海洋調査の変遷

【参考】

○水路記念日について

明治初期、次々に日本に來航した諸外国の艦船が、日本沿岸の測量を行い、海図を作るなどして日本周辺の地を明らかにしていく事態に、明治政府は国防のみならず海運のために自ら測量して海図を作製することの重要性を認識し、1871年(明治4年)9月12日(旧暦7月28日)に兵部省海軍部に水路局(国の海洋調査機関)を設立し、組織的に我が国独自の海図の作製に取りかかりました。

現在では、海上保安庁がその業務を引き継ぎ、航海安全・海洋権益保全等のための海洋調査のほか、近年では海に関する多様なニーズに応え、海を利用するために必要な情報を提供しています。

海上保安庁ではこの150年前に水路局の誕生した9月12日を水路記念日としています。



航海用海図



航海用海図は、船舶が安全かつ効率的に航海できるように、水深、底質、暗礁等の水路の状況、沿岸の地形、航路標識、自然・人工目標等その他航行、停泊に必要な事項を正確に見やすく表現した図です。



遠洋航海の時に使用する海図



沿岸航海の時に使用する海図



入港する時に使用する海図

海図記載の情報は、世界基準です。

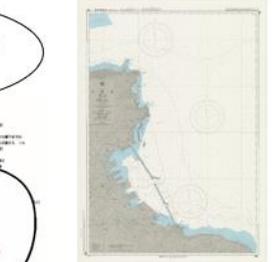




航海計画の立案などに使用する海図



海図記載の図式の例



入港する時に使用する海図



海図作製風景(大正)



海図作製風景(昭和)



海図作製風景(平成)

海図150周年 Japan Chart 150th